

産業用機械の制御盤を 設計から試運転まで一貫事業化

納期
相談
メイト
イン
ジャパン
試作可
小ロット



さまざまな機械の制御盤を製造

業務内容
ディスプレーの塗装装置用で
海外を含め多くの実績

産業用機械の制御盤を設計から製作、電気工事、試運転まで、塗装工程を除き一貫して手がけている。特にテレビやパソコン、携帯電話などのディスプレイを加工する塗装装置用の実績が多い。こうした製品のユーザーは中国や台湾など海外で、現地に出向き工事や試運転の立ち会いを行っている。

一方、機械事業として真空吸引による荷重20tのバキュームホイスなども、部品の製造も含めて設計製作している。長さ13mまでなら内製化できる。小規模の同業者が多く受注競争は厳しいが、長年の経験を背景に顧客から信頼を得ている。

強み
高精度な同期位置決め制御、
高品質な製造体制

操作制御盤ではサーボモータとPLC（シーケンサ）を用いる高精度な同期位置決め制御が得意。また、塗装装置用では小型から大型まで手がけ、低粘度から高粘度までの塗工液や、薄膜から厚膜までの膜厚に幅広く対応する。塗工速度の変化にも応えることもでき、これらにより塗工液の損失を低減につながり、顧客はコスト競争力を高められる。加えて、膜厚精度は±3%と高精度を誇る。バキュームホイスはアルミやステンレス、ガラス、コンクリートの搬送に使われる。安全かつ確実な吸引に定評があり、部品の徹底検査による真空漏れのない高品質な製造体制がその性能を支えている。

新規事業
真空技術を生かし研掃・
塗装ロボット事業に挑戦

新たな事業としてチャレンジするのは、船体やタンクの壁面を自走しながらエアで

メディアを吹き付け、さびを落とすブラストマシン。固有の真空技術で壁面に吸着する仕組みで、「研掃ロボット」と位置づけている。すでにシンガポール向けを受注した。もともとは親会社の太洋マシナリー（株）（大阪市大正区）が手がけていた事業で現在、同社で技術の検証を実施している。

また、同じ技術で「塗装ロボット」も手がけており、両ロボットともコンパクトなため自社工場でも製造できる。太洋マシナリー（株）の協力を得て、省人化ロボットとして市場開拓を図る。

今後の展望
自社ブランド製品を開発し、
下請け経営から脱却を目指す

米北洋一社長は、今後の主要戦略の1つとして「自社ブランドの製品を持つ」と説く。研掃ロボットや塗装ロボットも、その一環として位置づける。これまで得意の制御盤で経営を続けてきたが、大手の下請けのため顧客や業界の盛衰に左右されやすく、開発・営業要員を育てにくい側面もあった。自社ブランドで自ら売り込める製品を開発し、経営の安定や人材育成にも結びつきたいと考えた。「ロボットでは自社の真空技術を生かせるほか、制御技術にもつと磨きをかけられるので、手応えを感じている」と意気込む米北社長。脱下請けで成長を目指す。



研掃ロボットを検証試験



自社ブランド製品に挑戦する社員

当社の歴史



先代社長の山口忠吉が前身の「山忠電幸舎」を創業し、電気工事とホイス修理サービスから始めました。平成23年に太洋マシナリー（株）の子会社となり、同社と太洋プラント（株）と太洋セツビ（株）の「OMCO（オムコ）」グループに加わりました。今もOMCO創業者のバイオニア精神をDNAに受け継いでいます。

代表取締役社長 **米北 洋一さん**

http://www.omco-taiyo.co.jp/settsu/settsu_home.html

主な事業内容

制御盤・操作配電盤の設計、
製作、電気工事、試運転

主な取引先（納入先）

中外炉工業（株）、
太洋マシナリー（株）、
（株）ウチノ

住所

〒569-0833
高槻市
唐崎南1-1-3

TEL 072-677-4004
FAX 072-677-4012
創業 昭和45年2月
設立 昭和45年2月
資本金 1,000万円
従業員 19名